

## 猫って迷惑ですか？

猫が生理的に嫌い、あの姿がたまらなく嫌という人がいます。また、自分の庭に糞をされたり、車を傷つけられたりと、迷惑を受けることにより、次第に猫が嫌いになっていった人もいます。

平成 20 年度に、県動物保護管理センターに寄せられた苦情の多くは、「飼い主不明の猫が子を生んだので引き取ってほしい。」「エサをやる人がいて、飼い主のいない猫が増えて困っているので、つかまえてほしい。」「猫をたくさん飼っている人がおり、糞からの悪臭がたまらない。」といったものでした。

これらの迷惑を被った人の中には、「捕まえて処分してほしい。」「エサやりをやめさせてほしい。」と考える人もいます。しかし、猫が増える原因を解決せずに猫だけを排除しても、時間がたてば元の状態にもどってしまいます。

一方で、「腹を減らした猫にエサをやって助けてあげたい。」「飼い主のいない猫を増やさないために不妊・去勢手術をしたいが、経費がかかる。」といった話もよく耳にします。

「飼い主のいない猫」の問題では、「猫好き」「猫嫌い」それぞれ主張する地域住民の間に深刻な対立が起きることがあります。「猫好き」の人が、猫をかわいそうに思ってエサをやることで、猫の被害を受けている人の怒りがエサをやる人に向かい、人間関係がこじれてしまうこともあります。

猫に対する気持ちの違いを話し合いで埋めることができなければ、エサをやる人は、隠れてこっそりエサをやるようになり、また猫を嫌いな人は、猫を傷つけるようになるかもしれません。

このような状態で、地域で話し合いの場を設けても、問題解決に協力し合う関係作りにつながっていきません。

猫が好きか嫌いかというのは、感情の問題といえます。地域で問題解決を図るならば、取り組みに積極的な人で、地域住民間の感情対立をうまくおさめて、調整してくれる人の参加が必要となります。また、協力的なボランティア、民間の団体等への協力要請も必要となってくるでしょう。

地域の理解を得ながら活動を進めていくことは、決して簡単なことではありませんし、時間もかかるでしょう。猫が多い原因も様々だと思えます。地域の特性や参加する人によって様々なやり方があると思えます。

活動を始めるにあたって、このガイドラインを参考にさせていただいて、地域で納得できるルールを作り、猫によるトラブル解消、不幸な猫の減少に役立てていただければ幸いです。